

義歯ケアに関する解説

序文

平成 26 年 8 月 1 日

日本義歯ケア学会特任理事 細井紀雄
日本義歯ケア学会理事長 濱田泰三

超高齢社会における有床義歯装着者の増加に伴い、口腔ケア、義歯のケアは健康長寿を延伸させるうえで重要な課題です。そのためには本学会が正しい義歯の取り扱い方について社会、国民に説明責任を果たす必要があります。義歯のケアは義歯の清掃法、義歯洗浄剤の使用法、義歯の管理、義歯安定剤の使用の可否、など多岐に亘ります。

日本義歯ケア学会では平成 22 年（2010 年）に義歯のケアに関するガイドラインの策定を目的として、村田比呂司教授を委員長として検討を重ねて参りました。義歯ケアガイドラインの作成にあたってはまず、歯科医療関係者や国民がどのような疑問を持っているかを知り、それに対する根拠のある科学的論文があるかを検索しなければなりません。そこで平成 23 年に臨床的疑問点（クリニカルクエスション、CQ）の抽出を行い、義歯の洗浄、義歯安定剤、義歯の保管、口腔乾燥症、その他の 5 項目について文献検索と検討項目をまとめました。平成 25 年に絞り込んだ CQ について各委員が構造化アブストラクトを作成し、推奨度を設定しました。その結果を参考に、グレードが高く推奨度が高いこと、医療関係者や国民の関心が高いこと、類似の項目について他学会のガイドラインと齟齬がないことなどを考慮して 4 項目に絞り込み、日本義歯ケア学会ガイドラインとしてホームページに公表することにいたしました。今後は新たなエビデンスが蓄積された時点で本ガイドラインの改定・追加を随時行っていきます。

ここに、本学会ガイドラインの解説を掲載し、国民の皆様に義歯のケアに関する情報を提供するとともに、これを活用されることを願っています。

1 義歯装着者におけるデンチャープラークコントロールの有効性

義歯装着により口腔内環境はより複雑になり、汚れやすく、デンチャープラークの形成が多いため、デンチャープラークコントロールは必要かつ有効な手段である。

デンチャープラークは単なる食物残渣や着色物だけではなく、口腔内微生物とその生産物にも関与しており、口臭、残存歯の齶蝕や粘膜異常の原因になるだけでなく、胃潰瘍の病因菌である *Helicobacter pylori* も検出されている¹⁾。これらのデンチャープラークの除去には義歯用ブラシのみならず、義歯洗浄剤や超音波洗浄などを併用すること

で、効果的にプラークを除去できるとされている²⁻⁴⁾。義歯は毎日使用後、義歯用ブラシにより機械的清掃法と義歯洗浄剤を用いる化学的洗浄法の併用を指導する。また、できれば定期的に歯科医師もしくは歯科衛生士による洗浄も行うことを指導する。さらに、義歯清掃時に口腔内を含嗽し、清潔に保つようすることを指導する。

文献

- 1) 寺田容子, 弘田克彦, 永尾 寛, 柏原稔也, 市川哲雄. 感染症予防のためのデンチャープラークコントロール. 第一報: デンチャープラーク中の胃潰瘍原因菌 *Helicobacter pylori* の検出. 補綴誌 1999; 43: 100-104.
- 2) 城戸寛史, 三宅茂樹, 鱒見進一, 小田耕平, 城戸 修, 豊田静夫. 総義歯のプラークコントロールの効果に関する臨床的調査. 九州歯会誌 1988; 42: 287-292.
- 3) Gornitsky M, Paradis I, Landaverde G, Malo AM, Velly AM. A clinical and microbiological evaluation of denture cleansers for geriatric patients in long-term care institutions. J Can Dent Assoc 2002; 68: 39-45.
- 4) Dills SS, Olshan AM, Goldner S. Comparison of the antimicrobial capability of an abrasive paste and chemical-soak denture cleaners. J Prosthet Dent 1988; 60: 467-470.

2 義歯洗浄剤の必要性

義歯洗浄剤を使用することにより、義歯清掃効果が高くなる。義歯用ブラシや超音波洗浄器との併用により義歯清掃効果はいつそう高まるため、併用が望ましい。義歯洗浄剤の使用は、微生物のバイオフィーム形成を防止することにより、殺菌効果が高まる。しかし、形成されたバイオフィームへ義歯洗浄剤を浸透させるためには、義歯洗浄剤のみより、義歯用ブラシや超音波洗浄器などの機械的清掃法を併用した方がより効果的である。

文献

- 1) 塩田陽二, 齊藤仁弘, 宮崎紀代美, 平野進, 升谷滋行, 西山實. 義歯洗浄剤に関する研究 超音波洗浄法による洗浄効果について. 日本歯科医療管理学会雑誌 2002; 37: 294-301.
- 2) 小谷博夫, 浜田泰三. 義歯洗浄剤の使い方. デンタルダイヤモンド 1986; 11: 114-117.
- 3) Jose A, Coco BJ, Milligan S, Young B, Lappin DF, Bagg J, Murray C, Ramage G. Reducing the incidence of denture stomatitis: are denture cleansers sufficient? J Prosthodont 2010; 19: 252-257.
- 4) Paranhos HF, Silva-Lovato CH, de Souza RF, Cruz PC, de Freitas-Pontes KM, Watanabe E, Ito IY. Effect of three methods for cleaning dentures on biofilms formed *in vitro* on acrylic resin. J Prosthodont 2009; 18: 427-431.

3 義歯用ブラシと義歯洗浄剤の併用の有効性

義歯洗浄剤のみよりも義歯洗浄剤と義歯用ブラシを併用する方法が望ましい。デンチャープラークの除去にはブラシによる機械的清掃に比べて、義歯洗浄剤による化学的清掃が効果的である¹⁻⁵⁾。加熱重合レジン板を用いた *in vitro* の実験において機械的清掃と化学的清掃の併用が化学的清掃よりも有意に菌数を減少させ²⁾、また付着物を除去する効果が認められた⁶⁾。義歯装着者を対象とした場合、義歯用ブラシと義歯洗浄剤の併用の方が、義歯洗浄剤単独よりも効果があるとの報告^{3, 7, 8)}があるが、両者に有意差がないとの報告^{4, 5)}もみられた。従って、必ずしも併用の方が優れている方法とは結論づけられないものの⁹⁾、義歯洗浄剤とブラシを併用した方がより効果的に清掃できる可能性がある。

文献

- 1) 貞森紳丞、小谷博夫、二川浩樹、浜田泰三. 義歯性口内炎の臨床的研究 (第2報) 義歯の取り扱いと義歯性口内炎との関係. 補綴誌 1990; 34:202-207.
- 2) Paranhos HF, Silva-Lovato CH, de Souza RF, Cruz PC, de Freitas-Pontes KM, Watanabe E, Ito IY. Effect of three methods for cleaning dentures on biofilms formed *in vitro* on acrylic resin. J Oral Rehabil 2007; 34:606-612.
- 3) Paranhos HF, Silva-Lovato CH, Souza RF, Cruz PC, Freitas KM, Peracini A. Effect of mechanical and chemical methods on denture biofilm accumulation. J Oral Rehabil 2007; 34:606-612.
- 4) Chan EC, Iugovaz I, Siboo R, Bilyk M, Barolet R, Amsel R, Wooley C, Klitorinos A. Comparison of two popular methods for removal and killing of bacteria from dentures. J Can Dent Assoc 1991; 57: 937-939.
- 5) Dills SS, Olshan AM, Goldner S, Brogdon C. Comparison of the antimicrobial capability of an abrasive paste and chemical-soak denture cleaners. J Prosthet Dent 1988; 60: 467-470.
- 6) 齋藤仁弘、塩田陽二、西山 實. 義歯洗浄剤の洗浄効果. 日本歯科評論 2000; 696: 9-11.
- 7) Odman PA. The effectiveness of an enzyme-containing denture cleanser. Quintessence Int 1992; 23:187-190.
- 8) 石垣恵似子、利森 仁. 義歯に対する様々な清掃方法によるその効果. Journal of Cosmetic Oral Care 2008; 7:13-16.
- 9) Jagger R. Lack of evidence about the effectiveness of the different denture cleaning methods. Evid Based Dent 2009; 10:109.

4 軟質リライン材の咀嚼機能向上の観点からの有効性

軟質リライン材を下顎全部床義歯にリラインすることにより、咀嚼機能を向上させる症例と効果を及ぼさない症例がある。軟質リライン材は一般的に通常のレジン床義歯により咀嚼時疼痛を有する無歯顎患者に適用され、主として下顎義歯にリラインされる。現在、主としてアクリル系とシリコーン系の材料が使用され、製品により粘弾性的性質や耐久性が大きく異なっている。

文献

- 1) Kimoto S, So K, Yamamoto S, Ohno Y, Shinomiya M, Ogura K, Kobayashi K. Randomized controlled clinical trial for verifying the effect of silicone-based resilient denture liner on the masticatory function of complete denture wearers. *Int J Prosthodont* 2006; 19: 593-600.
- 2) Kimoto S, Yamamoto S, Shinomiya M, Kawai Y. Randomized controlled trial to investigate how acrylic-based resilient liner affects on masticatory ability of complete denture wearers. *J Oral Rehabil.* 2010; 37:553-559.
- 3) Murata H, Taguchi N, Hamada T, Kawamura M, McCabe JF. Dynamic viscoelasticity of soft liners and masticatory function. *J Dent Res* 2002; 81: 123-128.

平成 26 年 8 月 1 日

日本義歯ケア学会

理事長 濱田泰三

特任理事 細井紀雄

副理事長 水口俊介

理事 市川哲雄、岡崎定司、河相安彦、木本克彦、近藤尚知、貞森紳丞、鈴木哲也、坪井明人、西村正宏、村田比呂司、米山喜一

幹事 秋葉徳寿、織田展輔、黒木唯文、洪 光、諸熊正和

(50 音順)